

2024年春学期から以下の通り変更になります

1 学期留学

<日本語クラス>

【2023年秋まで】Aレベルは週6コマ必修、B~Dレベルは週4コマ必修+選択科目

	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	文字・漢字 90分	会話 90分
Aレベル 必修：週6コマ	必修①	必修②	必修③	必修④	必修⑤	必修⑥
B~Dレベル 必修：週4コマ 選択：週2コマ	必修①	必修②	必修③	必修④	選択①	選択②



【2024年春～】 週2コマ必修+選択科目（日本語）※

「日本語」は7レベル展開 必修：週2コマ 選択：週5コマ	日本語 90分	日本語 90分	JLPT N1対策 90分	JLPT N2対策 90分	日本事情 (基礎) 90分	日本事情 (応用/ビジネス日本語) 90分	日本事情 (発展) 90分
	必修①	必修②	選択①	選択②	選択③	選択④	選択⑤

2 学期留学

<日本語クラス>

【2023年秋まで】1学期目：週6コマ必修

2学期目：週4コマ必修+選択科目

1学期目 A~Dレベル 必修：週6コマ	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	文字・漢字 90分	会話 90分
	必修①	必修②	必修③	必修④	必修⑤	必修⑥
2学期目 A~Dレベル 必修：週4コマ 選択：週2コマ	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	日本語 90分	文字・漢字 90分	会話 90分
	必修①	必修②	必修③	必修④	選択①	選択②



【2024年春～】 1学期目：週2コマ必修+選択科目（日本語）※

2学期目：必修なし（希望者の履修は可能）+選択科目（日本語）※

1学期目 「日本語」は7レベル展開 必修：週2コマ 選択：週5コマ	日本語 90分	日本語 90分	JLPT N1対策 90分	JLPT N2対策 90分	日本事情 (基礎) 90分	日本事情 (応用/ビジネス日本語) 90分	日本事情 (発展) 90分
	必修①	必修②	選択①	選択②	選択③	選択④	選択⑤
2学期目 「日本語」は7レベル展開 選択：週7コマ	日本語 90分	日本語 90分	JLPT N1対策 90分	JLPT N2対策 90分	日本事情 (基礎) 90分	日本事情 (応用/ビジネス日本語) 90分	日本事情 (発展) 90分
	選択①	選択②	選択③	選択④	選択⑤	選択⑥	選択⑦

選択科目（日本語）※

【2024 年春～新規科目】

自分の興味のある授業を選択し、日本語や日本に関連する内容が学べます

- N1 対策（「聴解・読解」「文字・語彙・文法」）
- N2 対策（「聴解・読解」「文字・語彙・文法」）

授業内容 聴解・読解・文字語彙・文法の各分野について、日本語能力試験（JLPT）N1 及び N2 レベルの内容を学び、問題演習を行う。

- 日本事情（基礎）

授業内容 基本的な生活習慣やマナーをはじめ、年中行事や各地の風土など、日本で生活するなら知っておきたい基本的な事柄を学び、漢字語彙を覚え、日常生活に必要なコミュニケーション力をつける。

- 日本事情（応用／ビジネス日本語）

授業内容 丁寧体や普通体での会話との違いも意識しつつ、ビジネスで使われる敬語での会話を学ぶ。また、日本のビジネスマナーや一般常識を知り、ビジネス場面でのコミュニケーションにも挑戦する。

- 日本事情 A・B（発展）

授業内容 日本の生活、文化、教育、ビジネスなど日本社会に関する幅広いテーマについて、新聞記事や映像など時事的な題材をもとに話し合ったり、個人やグループで調査・発表を行ったりする。

【講義科目】 【交換留学生用】 日本語 Ia・Ib A レベル (Japanese Ia・Ib : 初級前半) (2単位)

【開講時間/担当講師】 火曜日 4限目 : 三木 由里子、木曜日 4限目 : 野村 真紀

【対象者】 日本語を初めて学ぶ学生

【学習目標】

- ・日常生活ですぐに使える自然な日本語表現を学び、日本語でコミュニケーションが取れるようになることをめざす。
- ・ひらがなの読み書きを学ぶ。

【講義計画】 注 : 講義計画の進度は状況によって変更することがある。
指示や説明などで英語を補助的に使用することがある。

回	日付	曜日	担当	ユニット	内 容
1	4/11	木	野村	ガイダンス、ユニット1	Guidance, Introducing Yourself
2	4/16	火	三木	ユニット1	〃
3	4/18	木	野村	ユニット2	Asking for Directions
4	4/23	火	三木	ユニット2	〃
5	4/25	木	野村	ユニット3	Shopping
6	4/30	火	三木	ユニット3	〃
7	5/7	火	三木	ユニット4	Convenience stores and restaurants
8	5/9	木	野村	ユニット4	〃
9	5/14	火	三木	ユニット5 Remember and Use	Basic Verbs, Verb conjugation List
10	5/16	木	野村	ユニット5	Asking permission
11	5/21	火	三木	ユニット5	〃
12	5/23	木	野村	ユニット6	Making requests
13	5/28	火	三木	ユニット6	〃
14	5/30	木	野村	ユニット7 Remember and Use	Time and Hours, Calendar
15	6/4	火	三木	中間試験	The mid-term
16	6/6	木	野村	ユニット7	Transportation
17	6/11	火	三木	ユニット8 Remember and Use	Verb Conjugations
18	6/13	木	野村	ユニット8	Talking about plans and activities
19	6/18	火	三木	ユニット8	〃
20	6/20	木	野村	ユニット9 Remember and Use	I-adjectives, Na-adjectives
21	6/25	火	三木	ユニット9	Talking about impressions
22	6/27	木	野村	ユニット9	〃
23	7/2	火	三木	ユニット10	Eating
24	7/4	木	野村	ユニット10	〃
25	7/9	火	三木	ユニット11	Socializing I -Making Small Talk-
26	7/11	木	野村	ユニット11	〃
27	7/16	火	三木	ユニット12	Socializing II -Invitations-
28	7/18	木	野村	ユニット12	〃
29	7/23	火	三木	発表 (スピーチ)、復習	Speech, Review
30	7/25	木	野村	期末試験	The final

【評価】 試験 (中間・期末) 60%、課題 (宿題・発表等) 20%、授業参加度 20%

【教科書】 『NIHONGO FUN & EASY』2nd edition (アスク) (購入必須)

【その他】

- ・火曜日と木曜日は別々の評価となる。それぞれ5回以上欠席すると評価の対象外になる。
- ・20分以上の遅刻・早退は欠席となる。また遅刻や早退は3回で欠席1回と数える。
- ・2学期目に必修科目を履修する場合は、改めてプレイスメントテストを受験すること。

【講義科目】 【交換留学生用】 日本語 Ia・Ib Bレベル (Japanese Ia・Ib : 初級後半) (2単位)

【開講時間/担当講師】 火曜日4限目：竹山直子、木曜日4限目：野村真紀

【対象】 ひらがなの読み書きができ、入門レベルの日本語で簡単なコミュニケーションができる学生

【学習目標】

初級前半レベルの日本語で日常的なコミュニケーションが取れるようになることをめざす

【講義計画】 注：講義計画の進捗は状況によって変更することがある。
指示や説明などで英語を補助的に使用することがある。

回	日付	曜日	担当	教科書	内容
1	4/11	木	野村	復習・ユニット1	ガイダンス、自己紹介、辞書形を使った表現
2	4/16	火	竹山		
3	4/18	木	野村		
4	4/23	火	竹山	ユニット2	ます形を使った表現
5	4/25	木	野村		
6	4/30	火	竹山	ユニット3	て形を使った表現①
7	5/7	火	竹山		
8	5/9	木	野村		
9	5/14	火	竹山	ユニット4	て形を使った表現②
10	5/16	木	野村		
11	5/21	火	竹山		
12	5/23	木	野村	ユニット5	た形を使った表現
13	5/28	火	竹山		
14	5/30	木	野村		
15	6/4	火	竹山	中間試験	
16	6/6	木	野村	ユニット6	ない形を使った表現
17	6/11	火	竹山		
18	6/13	木	野村		
19	6/18	火	竹山	ユニット7・10	普通形を使った表現 Casual Conversation Between Friends
20	6/20	木	野村		
21	6/25	火	竹山		
22	6/27	木	野村		
23	7/2	火	竹山		
24	7/4	木	野村	ユニット8	形容詞を使った表現
25	7/9	火	竹山		
26	7/11	木	野村		
27	7/16	火	竹山	ユニット13	授受表現
28	7/18	木	野村		
29	7/23	火	竹山	発表、復習	
30	7/25	木	野村	期末試験	

【評価】 試験（中間・期末）60%、課題（宿題・発表等）20%、授業参加度 20%

【教科書】 『NIHONGO FUN & EASY II』（アスク）（購入必須）

【参考図書】 特になし

【その他】 ・火曜と木曜は別々に評価する。それぞれ5回以上欠席すると評価の対象外となる。
・20分以上の遅刻・早退は欠席となる。また遅刻や早退は3回で欠席1回と数える。
・2学期目に必修科目を履修する場合は、改めてプレイスメントテストを受験すること。

【講義科目】 【交換留学生用】日本語 Ia・Ib Cレベル (Japanese Ia・Ib: 初級後半) (2単位)

【開講時間/担当講師】 火曜日4限目: 酒井滋子、木曜日4限目: 竹山直子

【対象】

- ・初級前半レベルの日本語が定着している留学生。

【学習目標】

- ・初級後半レベルの日本語を使って社会活動に必要なコミュニケーションができるようになることを目標とし、そのために必要な語彙や文法を学習する。

【講義計画】注: 講義計画の進捗は状況によって変更することがある。

回	日付	曜日	担当	課	内容
1	4/11	木	竹山	初級前半の復習	
2	4/16	火	酒井	初級前半の復習	
3	4/18	木	竹山	初級前半の復習	
4	4/23	火	酒井	初級前半の復習	
5	4/25	木	竹山	L 1	自己紹介
6	4/30	火	酒井	L 2	ショッピング
7	5/7	火	酒井	L 1 5 (『できる日本語初級』)	テレビ・雑誌から①
8	5/9	木	竹山	L 1 5 (『できる日本語初級』)	テレビ・雑誌から②
9	5/14	火	酒井	L 1 5 (『できる日本語初級』)	テレビ・雑誌から③
10	5/16	木	竹山	L 1 5 (『できる日本語初級』)	テレビ・雑誌から④
11	5/21	火	酒井	L 3	目標や夢①
12	5/23	木	竹山	L 3	目標や夢②
13	5/28	火	酒井	L 3	目標や夢③
14	5/30	木	竹山	L 5	困ったこと①
15	6/4	火	酒井	L 5	困ったこと②
16	6/6	木	竹山	復習/発表等	
17	6/11	火	酒井	中間試験	
18	6/13	木	竹山	L 8	感謝する
19	6/18	火	酒井	L 6	旅行の準備①
20	6/20	木	竹山	L 6	旅行の準備②
21	6/25	火	酒井	L 7	お世話になった人と話す①
22	6/27	木	竹山	L 7	お世話になった人と話す②
23	7/2	火	酒井	L 1 0	旅行先で話す①
24	7/4	木	竹山	L 1 0	旅行先で話す②
25	7/9	火	酒井	L 1 1	地域社会で話す①
26	7/11	木	竹山	L 1 1	地域社会で話す②
27	7/16	火	酒井	L 1 3	経験や意見を話す①
28	7/18	木	竹山	L 1 3	経験や意見を話す②
29	7/23	火	酒井	復習/発表等	
30	7/25	木	竹山	期末試験	

【評価】 試験 (中間・期末) 60%、課題 (宿題・作文・発表等) 30%、授業参加度 10%

【教科書】 『できる日本語 初中級』(アルク) (購入必須)

【参考図書】 『できる日本語 初級』(アルク)

【その他】

- ・火曜と木曜は別々に評価します。それぞれ5回以上欠席すると評価の対象外です。
- ・20分以上の遅刻・早退は欠席です。また遅刻や早退は3回で欠席1回と数えます。
- ・2学期目に必修科目を履修する場合は、改めてプレイスメントテストを受験します。

【講義科目】【交換留学生用】日本語 Ia・Ib Dレベル (Japanese Ia・Ib: 初中級) (2単位)

【開講時間/担当講師】 火曜日 3限目: 酒井滋子、木曜日 3限目: 竹山直子

【対象】

- ・初級後半レベルの日本語をひととおり学習済みの留学生。

【学習目標】

- ・初級後半レベルから初中級レベルの語彙や文法を使いこなし、日常的な社会活動において十分にコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。

【講義計画】注: 講義計画の進度は状況によって変更することがある。

回	日付	曜日	担当	課	内容
1	4/11	木	竹山	L1	自己紹介①
2	4/16	火	酒井	L1	自己紹介②
3	4/18	木	竹山	L2	気持ちを表現する
4	4/23	火	酒井	L3	心配する①
5	4/25	木	竹山	L3	心配する②
6	4/30	火	酒井	L4	おすすめの場所①
7	5/7	火	酒井	L4	おすすめの場所②発表
8	5/9	木	竹山	L5	わからないことを聞く
9	5/14	火	酒井	L6	状況を聞く
10	5/16	木	竹山	L9	子供時代について話す
11	5/21	火	酒井	L13	ルール
12	5/23	木	竹山	L14	失敗について話す
13	5/28	火	酒井	L17	写真を説明する①
14	5/30	木	竹山	L17	写真を説明する②発表
15	6/4	火	酒井	L15	聞いた話を伝える
16	6/6	木	竹山		復習
17	6/11	火	酒井		中間試験
18	6/13	木	竹山	L18	謝る
19	6/18	火	酒井	L19	アドバイス
20	6/20	木	竹山	L20	電話をする
21	6/25	火	酒井	L25	苦情を言う
22	6/27	木	竹山	L26	断る
23	7/2	火	酒井	L27	嬉しかったこと/嫌だったこと
24	7/4	木	竹山	L28	物について説明する
25	7/9	火	酒井	L29	準備の相談をする
26	7/11	木	竹山	L10	電話で予約する
27	7/16	火	酒井	L30	電話で問い合わせる
28	7/18	木	竹山	L12	意見を言う①
29	7/23	火	酒井	L12	意見を言う②発表、復習
30	7/25	木	竹山		期末試験

【評価】 試験 (中間・期末) 60%、課題 (宿題・作文・発表等) 30%、授業参加度 10%

【教科書】 『Weekly J-日本語で話す6週間』 (凡人社) (購入必須)

【参考図書】 特になし

- 【その他】
- ・火曜と木曜は別々に評価します。それぞれ5回以上欠席すると評価の対象外です。
 - ・20分以上の遅刻・早退は欠席です。また遅刻や早退は3回で欠席1回と数えます。
 - ・2学期目に必修科目を履修する場合は、改めてプレイスメントテストを受験します。

講義名: 日本語 I a<必修08〜> 01<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜日1: 木4 曜日2:
担当教員名: 村中 淑子

研究室: 聖アンデレ館6階625号室 オフィスアワー: 月曜昼休み、木曜昼休み メールアドレス: tmuranaka@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』 『パソコン実習』

講義・演習概要
外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。
日本語の語彙と文型を理解し、適切なレポートを作れるようになるための基礎的な練習を行う。

学習(到達)目標
(1)助詞の使い方、活用形、自動詞・他動詞・受け身、呼応などの文法事項を理解し、適切な日本語の文が作れる。
(2)漢字・ひらがな・カタカナの使い方や読点等、文の形の整え方を理解し、適切に実践できる。
(3)文末表現、書き言葉らしさ、接続詞、レポートの基本的な形式を理解し、適切に実践できる。

講義・演習計画	
【第1回】 授業の進め方の説明、クラス内の相互自己紹介活動、アンケートと個別面接(ニーズ・レディネス確認)	
【第2回】 助詞の使い方、漢字の読み。	
【第3回】 言葉の形の使い分け。	
【第4回】 自動詞・他動詞・受け身。	
【第5回】 復習。小テスト(1)。	
【第6回】 呼応。	
【第7回】 文末表現の調整。	
【第8回】 カタカナの使い方。	
【第9回】 復習。小テスト(2)。	
【第10回】 読点の打ち方。	
【第11回】 書き言葉らしさ。	
【第12回】 文の長さ。	
【第13回】 復習。小テスト(3)。	
【第14回】 先生あてのEメールの書き方。	
【第15回】 復習とまとめ。小レポート課題。	

成績評価の方法				
試験	90%	レポート	10%	その他
コメント	小テスト3回(それぞれ30点ずつ)と最終回の小レポート課題(10点)を合わせて評価する。それまでの学習項目の理解ができていくかどうかをはかる。 毎回の出席(万一、遠隔授業となった場合は遠隔出席)と課題の提出が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。			

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	テキストは指定せず、コピー資料を配布する。
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
石黒圭ほか『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク)

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
ほぼ毎回、その回の項目に沿った課題を課す。課題については個別もしくは全体に向けてフィードバックするので、よく復習してテストに備えること。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 I a<必修08～> 02<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜日1: 水4 曜時2:
担当教員名: 竹山 直子

研究室: 外国語教育センター オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限 メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』 『グループワーク』 『パソコン実習』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』

講義・演習概要
外国人留学生を対象とし、大学で学ぶために必要となるアカデミックな日本語力のうち、特に「書き力」を養う。小論文やレポートなど論理的な文章を書くときの基本的な文法や表記のルールを学ぶ。

学習(到達)目標
レポートにふさわしい文体、文法、表現など、アカデミックな文章を書くときに必要となる基本的な知識を身につける。

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション レポートの文体 作文①	
【第2回】 助詞の使い方	
【第3回】 言葉の形	
【第4回】 自動詞・他動詞・受身	
【第5回】 呼応	
【第6回】 文末表現	
【第7回】 作文②	
【第8回】 ひらがなと漢字のバランス	
【第9回】 漢字の選択	
【第10回】 カタカナの使い方	
【第11回】 読点の打ち方	
【第12回】 書き言葉らしさ	
【第13回】 辞書の危険性	
【第14回】 専門用語の選び方	
【第15回】 試験とまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	40%	その他	10%
コメント	試験50%、レポート(小テスト・課題作文)40%、その他(授業参加度等)10% 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書	石黒圭・筒井千絵	タイトル	留学生のためのここが大切 文章表現のルール
ISBN	978-4-88319-502-2	出版社	スリーエーネットワーク
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
小森真理・三井久美子『レポート・論文を書くための日本語文法』(くろしお出版)
二通信子他『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)
二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
ほぼ毎回、前回の学習範囲から小テストをしますので、準備をしてください。返却された小テストや課題は必ず見直ししましょう。また、普段から日本や世界で起こっている事柄に関心を持ち、日本語でニュースを読んだり聞いたりする機会を持ちましょう。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 I a<必修08〜> 03<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜時1: 火3 曜時2:
担当教員名: 三木 由里子

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』

講義・演習概要
大学で論文やレポートなどを日本語で書くための基本的なルールを学ぶ。

学習(到達)目標
①日本語の文法や語彙などが正しく的確に使えるようになる。
②学んだルールを用いて自分の力で日本語で書く。

講義・演習計画	
【第1回】 自己紹介、ガイダンス、実力チェック等	
【第2回】 第1課	
【第3回】 第2課	
【第4回】 第3課	
【第5回】 第4課・第5課	
【第6回】 中間試験①・第6課	
【第7回】 第7課・第8課	
【第8回】 第9課・第10課	
【第9回】 中間試験②・第11課	
【第10回】 第12課	
【第11回】 第13課	
【第12回】 第14課	
【第13回】 第15課	
【第14回】 第16課	
【第15回】 学期末試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	60%	レポート	0%	その他	40%
コメント	・評価の内訳 試験: 学期末試験30%、小テスト15%×2 その他: 平常点40%(提出物、授業参加、授業への取り組み) ・毎回授業に出席すること。5回以上の欠席、あるいは提出物の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	石黒圭、筒井千絵	タイトル	留学生のための ここが大切 文章表現のルール
ISBN	9784883195022	出版社	スリーエーネットワーク
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・宿題を必ずやり、期限内に提出すること。
・何かを写すのでなく、自分の力で書くこと。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 I a<必修08～> 04<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜時1: 水4 曜時2:
担当教員名: 三木 由里子

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』

講義・演習概要
大学で論文やレポートなどを日本語で書くための基本的なルールを学ぶ。

学習(到達)目標
①日本語の文法や語彙などが正しく的確に使えるようになる。
②学んだルールを用いて自分の力で日本語で書く。

講義・演習計画	
【第1回】 自己紹介、ガイダンス、実力チェック等	
【第2回】 第1課	
【第3回】 第2課	
【第4回】 第3課	
【第5回】 第4課・第5課	
【第6回】 中間試験①・第6課	
【第7回】 第7課・第8課	
【第8回】 第9課・第10課	
【第9回】 中間試験②・第11課	
【第10回】 第12課	
【第11回】 第13課	
【第12回】 第14課	
【第13回】 第15課	
【第14回】 第16課	
【第15回】 学期末試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	60%	レポート	0%	その他	40%
コメント	・評価の内訳 試験: 学期末試験30%、小テスト15%×2 その他: 平常点40%(提出物、授業参加、授業への取り組み) ・毎回授業に出席すること。5回以上の欠席、あるいは提出物の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	石黒圭、筒井千絵	タイトル	留学生のための ここが大切 文章表現のルール
ISBN	9784883195022	出版社	スリーエーネットワーク
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・宿題を必ずやり、期限内に提出すること。
・何かを写すのでなく、自分の力で書くこと。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 I b<必修08〜> 01<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜時1: 火3 曜時2:
担当教員名: 吉岡 美穂

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
新聞、雑誌、文献などから国内外に関するニュース記事を中心に内容を理解する。
他の留学生の意見、考え方の違いを比較しながら異文化理解を深めていく。

学習(到達)目標
1) 様々なテーマを読み、話し合いを通して異なる文化の人々の相違点を学ぶ。
2) 人の意見を尊重して聞くことの重要性を学ぶ。

講義・演習計画	
【第1回】 オリエンテーション	
【第2回】 読解演習	
【第3回】 読解演習	
【第4回】 読解演習	
【第5回】 読解演習	
【第6回】 読解演習	
【第7回】 クラス発表	
【第8回】 読解演習	
【第9回】 読解演習	
【第10回】 読解演習	
【第11回】 読解演習	
【第12回】 読解演習	
【第13回】 読解演習	
【第14回】 クラス発表	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	30%	レポート	20%	その他	50%
コメント	①その他50%の評価は宿題20%、漢字クイズ20%、発表や参加貢献度10%の合計となります。 ②5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。 ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
参考文献は授業中に紹介する。

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
毎週、読解の宿題があるので翌週に提出する。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 I b<必修08〜> 02<春> 曜日1: 金3 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPN1000 曜時2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態			
『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』			
講義・演習概要			
留学生在が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。			
学習(到達)目標			
【読解】ある程度の長さを持った論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約できるようになる。 【聴解】ある程度の長さの講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえるとともに重要な細部を聞き取って、ノートを取ったり要約したりできるようになる。			
講義・演習計画			
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「富士山」			
【第2回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「アクセント」			
【第3回】 漢字テストとディクテーション、読解①「風呂場の戸」(表現)			
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「風呂場の戸」(読解)			
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「長寿の理由」			
【第6回】 漢字テストとディクテーション、聴解④「四つ葉のクローバー」			
【第7回】 漢字テストとディクテーション、読解③「ストレス対処法」(表現)			
【第8回】 漢字テストとディクテーション、読解④「ストレス対処法」(読解)			
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤「札幌のお祭り」			
【第10回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥「失敗学」			
【第11回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「小学校の英語」(表現)			
【第12回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「小学校の英語」(読解)			
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「からくり人形」			
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「手で数を表す」			
【第15回】 試験とまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	40%
コメント	・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
毎回、配付教材あり。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)			
・読解については、事前に予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしていくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本語 I b<必修08～> 03<春> 曜日1: 木4 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPN1000 曜時2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態			
『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』			
講義・演習概要			
留学生在が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。			
学習(到達)目標			
【読解】ある程度の長さを持った論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約できるようになる。 【聴解】ある程度の長さの講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえるとともに重要な細部を聞き取って、ノートを取ったり要約したりできるようになる。			
講義・演習計画			
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「富士山」			
【第2回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「アクセント」			
【第3回】 漢字テストとディクテーション、読解①「風呂場の戸」(表現)			
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「風呂場の戸」(読解)			
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「長寿の理由」			
【第6回】 漢字テストとディクテーション、聴解④「四つ葉のクローバー」			
【第7回】 漢字テストとディクテーション、読解③「ストレス対処法」(表現)			
【第8回】 漢字テストとディクテーション、読解④「ストレス対処法」(読解)			
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤「札幌のお祭り」			
【第10回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥「失敗学」			
【第11回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「小学校の英語」(表現)			
【第12回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「小学校の英語」(読解)			
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「からくり人形」			
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「手で数を表す」			
【第15回】 試験とまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	40%
コメント	・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
毎回、配付教材あり。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)			
・読解については、事前に予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしていくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本語 I b<必修08~> 04<春> ナンバリングコード: JPN1000
曜日1: 金3 曜時2:
担当教員名: 野村 真紀

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『アクティブラーニング』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
日本語母語話者ではない留学生が、大学での授業履修のために必要な「読む・書く・聞く・話す」日本語力を伸ばす練習を行う。また、毎回の学習項目の定着度をみるための小テストも実施する。

学習(到達)目標
理解力だけではなく、実際に授業内で使える運用力をつけることを到達目標とする。

講義・演習計画	
【第1回】・オリエンテーション ・使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第2回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第3回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第4回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第5回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第6回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第7回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第8回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第9回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第10回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第11回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第12回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第13回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第14回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第15回】 期末試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	40%	レポート	40%	その他	20%
コメント	・5回以上の欠席あるいは課題の未提出は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
毎回の授業内で教材を配布

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・毎回の学習事項を事前に目を通し、わからない語彙を調べるなどの予習をすること
・提出物は必ず期日までに提出すること

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅱa<必修08～> 01<秋> 曜日1: 木4 担当教員名: 村中 淑子		ナンバリングコード: JPN1010 曜日2:	
研究室: 聖アンデレ館6階625号室		オフィスアワー: 月曜昼休み、木曜昼休み	メールアドレス: tmuranaka@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』『プレゼンテーション』『グループワーク』『パソコン実習』			
講義・演習概要			
外国人留学生が、大学で勉強する際に必要となるアカデミックな日本語力のうち、とくに書く力を養うことを目指して授業を進める。日本語で適切なレポートをかけるようになるための練習を行う。パソコン実習室で作業する形の授業も行う予定。			
学習(到達)目標			
(1)アカデミックワードを理解し、レポートにふさわしい文体で文章が書ける。 (2)見やすくわかりやすい文章が書ける。 (3)Wordやメールソフトを用いて、適切な文章作成ができる。			
講義・演習計画			
【第1回】授業の進め方の説明、3分間スピーチ。個別面接(レディネス確認)。			
【第2回】アカデミックワードと日常語。			
【第3回】見やすい表記。わかりやすい語順。			
【第4回】アンケート用紙を作る。			
【第5回】レポートや論文を書く。			
【第6回】復習と小テスト(1)(パソコンを用いて文章作成を行う)			
【第7回】結論を先に述べる。			
【第8回】事実か意見か。			
【第9回】データの解釈。			
【第10回】復習と小テスト(2)(パソコンを用いて文章作成を行う)			
【第11回】レポートにふさわしい文体と段落構成。			
【第12回】レポートテーマの設定の仕方。			
【第13回】レポートの構成。			
【第14回】復習と小テスト(3)(パソコンを用いて文章作成を行う)			
【第15回】まとめ。小レポート作成。			
成績評価の方法			
試験	90%	レポート	10%
コメント	小テスト3回(それぞれ30点ずつ)と最終回の小レポート課題(10点)を合わせて評価する。それまでの学習項目の理解ができていかどうかをはかる。毎回の出席(万一、遠隔授業となった場合は遠隔出席)と課題の提出が原則です。5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	テキストは指定せず、コピー資料を配布する。
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
安部朋世・福嶋健伸・橋本 修編著『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 トレーニングシート』(三省堂) 野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』(ひつじ書房) 石井一成『大学生のためのレポート・論文の書き方』(ナツメ社) 南田勝也・谷田部圭介・山下玲子『ゼミで学ぶスタディスキル』(北樹出版)			
事前および事後学習の指示(事前学習 8 時間・事後学習 8 時間)			
ほぼ毎回、その回の項目に沿った作文課題を課す。個別もしくは全体に向けてフィードバックするのでよく復習してテストに備えること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本語Ⅱa<必修08～> 02<秋> ナンバリングコード: JPN1010
曜日1: 水4 曜時2:
担当教員名: 竹山 直子

研究室: 外国語教育センター オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限 メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』 『グループワーク』 『パソコン実習』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』

講義・演習概要
外国人留学生を対象とし、大学で学ぶために必要となるアカデミックな日本語力のうち、特に「書き力」を養う。小論文やレポートなど論理的な文章の構成や組み立て方を学び、作文課題に取り組む。

学習(到達)目標
アカデミックな文章の構成を意識し、引用や資料の利用を適切に行い、論理的に文章を組み立ててレポートが書けるようになる。

講義・演習計画	
【第1回】 レポートの文体	
【第2回】 文の長さ読みやすさ	
【第3回】 指示詞による文の接続	
【第4回】 接続詞と文章の構成	
【第5回】 読み手への配慮	
【第6回】 作文①	
【第7回】 レポートの基本的な書き方①	
【第8回】 レポートの基本的な書き方②	
【第9回】 立場のある文章の書き方	
【第10回】 資料の利用①	
【第11回】 資料の利用②	
【第12回】 Eメールの書き方	
【第13回】 作文②	
【第14回】 試験とまとめ	
【第15回】 試験のフィードバック	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	40%	その他	10%
コメント	試験50%、レポート(小テスト・作文課題)40%、その他(授業参加度等)10% 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書	石黒圭・筒井千絵	タイトル	留学生のためのここが大切 文章表現のルール
ISBN	978-4-88319-502-2	出版社	スリーエーネットワーク
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)
二通信子他『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(スリーエーネットワーク)
二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
ほぼ毎回、前回の学習範囲から小テストをしますので、準備してください。返却された小テストや課題は必ず見直し、よく復習しましょう。また、普段から日本や世界で起こっている事柄に関心を持ち、日本語でニュースを読んだり聞いたりする機会を持ちましょう。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅱa<必修08～> 03<秋> ナンバリングコード: JPN1010
曜日1: 火3 曜日2:
担当教員名: 三木 由里子

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『アクティブラーニング』

講義・演習概要
テーマに沿った文章を、クラスメートと協働して日本語で書く。

学習(到達)目標
①テーマについて自分の考えをまとめ、文章にする。
②読み手に伝わるように文章を組み立てる。
③的確な文法や語彙を用いて、自分の力で書く。

講義・演習計画	
【第1回】 ガイダンス、力試しなど	
【第2回】 第1課①	
【第3回】 第1課②	
【第4回】 第2課①	
【第5回】 第2課②	
【第6回】 第3課①	
【第7回】 第3課②	
【第8回】 第4課①	
【第9回】 第4課②	
【第10回】 第5課①	
【第11回】 第5課②	
【第12回】 第6課①	
【第13回】 第6課②	
【第14回】 第7課	
【第15回】 最終レポート完成、総まとめ	

成績評価の方法					
試験	0%	レポート	30%	その他	70%
コメント	・評価の内訳 レポート:最終レポートおよび総まとめ30% その他:平常点70%(提出物、授業参加、取り組みの姿勢) ・毎回授業に出席すること。5回以上の欠席、および提出物の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	杉浦千里、木戸光子	タイトル	おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文
ISBN	9784893589781	出版社	凡人社
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・宿題を必ずやり、期限内に提出すること。
・何かを写すのではなく、自分の力で書くこと。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅱa<必修08～> 04<秋> ナンバリングコード: JPN1010
曜時1: 水4 曜時2:
担当教員名: 三木 由里子

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『アクティブラーニング』

講義・演習概要
テーマに沿った文章を、クラスメートと協働して日本語で書く。

学習(到達)目標
①テーマについて自分の考えをまとめ、文章にする。
②読み手に伝わるように文章を組み立てる。
③的確な文法や語彙を用いて、自分の力で書く。

講義・演習計画	
【第1回】 ガイダンス、力試しなど	
【第2回】 第1課①	
【第3回】 第1課②	
【第4回】 第2課①	
【第5回】 第2課②	
【第6回】 第3課①	
【第7回】 第3課②	
【第8回】 第4課①	
【第9回】 第4課②	
【第10回】 第5課①	
【第11回】 第5課②	
【第12回】 第6課①	
【第13回】 第6課②	
【第14回】 第7課	
【第15回】 最終レポート完成、総まとめ	

成績評価の方法					
試験	0%	レポート	30%	その他	70%
コメント	・評価の内訳 レポート:最終レポートおよび総まとめ30% その他:平常点70%(提出物、授業参加、取り組みの姿勢) ・毎回授業に出席すること。5回以上の欠席、および提出物の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	杉浦千里、木戸光子	タイトル	おしゃべりしながら 書くことを楽しむ中級作文
ISBN	9784893589781	出版社	凡人社
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・宿題を必ずやり、期限内に提出すること。
・何かを写すのではなく、自分の力で書くこと。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅱb<必修08~> 01<秋> ナンバリングコード: JPN1010
曜時1: 火3 曜時2:
担当教員名: 吉岡 美穂

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
春学期に引き続き、新聞、雑誌、文献などから国内外のニュースを中心に読解練習を行う。
テーマにそってのディスカッションや、発表を行う。

学習(到達)目標
他者との話し合いを通して、積極的に人の意見を聞く力と他者の意見を尊重する重要性を学ぶ。
自分の意見を分かりやすく伝えることができるようになることを目的とする。

講義・演習計画	
【第1回】 オリエンテーション	
【第2回】 読解演習	
【第3回】 読解演習	
【第4回】 読解演習	
【第5回】 読解演習	
【第6回】 読解演習	
【第7回】 クラス発表	
【第8回】 読解演習	
【第9回】 読解演習	
【第10回】 読解演習	
【第11回】 読解演習	
【第12回】 読解演習	
【第13回】 読解演習	
【第14回】 クラス発表	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	30%	レポート	20%	その他	50%
コメント	①その他50%の評価は宿題20%、漢字クイズ20%、発表や参加貢献度10%の合計となります。 ②5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。 ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
教員が毎回資料を用意する。

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
毎週、宿題があるので翌週に提出。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語 II b<必修08～> 02<秋> 曜日1: 金3 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPAN1010 曜日2:			
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後			
メールアドレス:					
授業形態 『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』					
講義・演習概要 留学生が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。					
学習(到達)目標 【読解】春学期よりやや難易度の高い論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約し、それについての意見を書くことができるようになる。 【聴解】春学期よりやや難易度の高い講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえるとともに重要な細部を聞き取ってノートを取ったり要約したりし、さらにそれについての意見を書くことができるようになる。					
講義・演習計画					
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「新幹線のおでこ」					
【第2回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「掃除」					
【第3回】 漢字テストとディクテーション、読解①「子供の名前」(表現)					
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「子供の名前」(読解)					
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「そば屋ののれん」					
【第6回】 漢字テストとディクテーション、読解③「IT」(表現)					
【第7回】 漢字テストとディクテーション、読解④「IT」(読解)					
【第8回】 漢字テストとディクテーション、聴解④ 講義を聞く(前半)					
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤ 講義を聞く(後半)					
【第10回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「カラスの自動車利用行動」(表現)					
【第11回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「カラスの自動車利用行動」(読解)					
【第12回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥「落語」					
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「南極」					
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「人生の時間」					
【第15回】 試験とまとめ					
成績評価の方法					
試験	40%	レポート	40%	その他	20%
コメント	・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	プリント配布	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献 毎回、配付教材あり。					
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間) ・読解については、予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしておくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。					
その他備考(担当教員用)					
キーワード					
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能					

講義名: 日本語 II b<必修08～> 03<秋> 曜日1: 木4 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPAN1010 曜日2:			
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	メールアドレス:		
授業形態 『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』					
講義・演習概要 留学生が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。					
学習(到達)目標 【読解】春学期よりやや難易度の高い論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約し、それについての意見を書くことができるようになる。 【聴解】春学期よりやや難易度の高い講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえるとともに重要な細部を聞き取ってノートを取ったり要約したりし、さらにそれについての意見を書くことができるようになる。					
講義・演習計画					
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「新幹線のおでこ」					
【第2回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「掃除」					
【第3回】 漢字テストとディクテーション、読解①「子供の名前」(表現)					
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「子供の名前」(読解)					
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「そば屋ののれん」					
【第6回】 漢字テストとディクテーション、読解③「IT」(表現)					
【第7回】 漢字テストとディクテーション、読解④「IT」(読解)					
【第8回】 漢字テストとディクテーション、聴解④ 講義を聞く(前半)					
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤ 講義を聞く(後半)					
【第10回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「カラスの自動車利用行動」(表現)					
【第11回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「カラスの自動車利用行動」(読解)					
【第12回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥「落語」					
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「南極」					
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「人生の時間」					
【第15回】 試験とまとめ					
成績評価の方法					
試験	40%	レポート	40%	その他	20%
コメント	・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	プリント配布	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
毎回、配付教材あり。					
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間・事後学習 8 時間)					
・読解については、予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしておくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。					
その他備考(担当教員用)					
キーワード					
備考(管理者用)					
外国人留学生のみ履修可能					

講義名: 日本語Ⅱb<必修08～> 04<秋> ナンバリングコード: JPN1010
曜日1: 金3 曜時2:
担当教員名: 野村 真紀

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『アクティブラーニング』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
日本語母語話者ではない留学生が、大学での授業履修のために必要な「読む・書く・聞く・話す」日本語力を伸ばす練習を行う。また、毎回の学習項目の定着度をみるための小テストも実施する。

学習(到達)目標
理解力だけではなく、実際に授業内で使える運用力をつけることを到達目標とする。

講義・演習計画	
【第1回】・オリエンテーション ・使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第2回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第3回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第4回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第5回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第6回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第7回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第8回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第9回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第10回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第11回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第12回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第13回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第14回】 使用教材で取り上げられている読解・文法・聴解・話す練習	
【第15回】 期末試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	40%	レポート	40%	その他	20%
コメント	・5回以上の欠席あるいは課題の未提出は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
毎回の授業内で教材を配布

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
・毎回の学習事項を事前に目を通し、わからない語彙を調べるなどの予習をしておくこと
・提出物は必ず期日までに提出すること

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅲa<必修08～> 01<春> 曜日: 木1 担当教員名: 村中 淑子		ナンバリングコード: JPN2000 曜日2:	
研究室: 聖アンデレ館6階625号室		オフィスアワー: 月曜昼休み、木曜昼休み	
メールアドレス: tmuranaka@andrew.ac.jp			
授業形態 『講義』『プレゼンテーション』『グループワーク』『パソコン実習』			
講義・演習概要 外国人留学生在大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行う。			
学習(到達)目標 (1)文章のテーマ・問い・結論を発見できる。 (2)文章の中の二項対立や筆者の立場を把握し、内容を整理して理解できる。 (3)Wordによるレポートが適切な形で書ける。			
講義・演習計画			
【第1回】 授業の進め方の説明、クラス内の相互自己紹介活動、アンケートと個別面接(ニーズ・レディネス確認)			
【第2回】 文章のテーマの発見。			
【第3回】 文章の問いの発見。			
【第4回】 文章の結論の発見。			
【第5回】 小テスト(1)(パソコンを用いてWordによる文章作成を行う)			
【第6回】 二項対立の発見1。			
【第7回】 二項対立の発見2。			
【第8回】 筆者の立場の発見。			
【第9回】 文章の内容整理。			
【第10回】 小テスト(2)(パソコンを用いてWordによる文章作成を行う)			
【第11回】 現代の日本社会に関する新聞記事の読み取り1			
【第12回】 現代の日本社会に関する新聞記事の読み取り2			
【第13回】 パターンを用いた作文の練習。			
【第14回】 小テスト(3)(パソコンを用いてWordによる文章作成を行う)			
【第15回】 まとめ。小レポート作成(パソコンを用いてWordによる文章作成を行う)			
成績評価の方法			
試験	90%	レポート	10%
コメント	小テスト3回(それぞれ30点ずつ)と最終回の小レポート課題(10点)を合わせて評価する。それまでの学習項目の理解ができていのかどうかをはかる。毎回の出席(万一、遠隔授業となった場合は遠隔出席)と課題の提出が原則です。5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	テキストは指定せず、コピー資料を配布する。
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献 一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』(スリーエーネットワーク)、C&P日本語教育・教材研究会『日本語作文Ⅱ—中級後期から上級までの作文と論文作法—』専門教育出版			
事前および事後学習の指示(事前学習 8 時間・事後学習 8 時間) 毎回、その回の項目に沿った課題を課す。個別にフィードバックするので、よく復習してテストに備えること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用) 外国人留學生のみ履修可能			

講義名: 日本語Ⅲa<必修08～> 02<春> ナンバリングコード: JPN2000
曜日1: 月2 曜時2:
担当教員名: 竹山 直子

研究室: 外国語教育センター オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限 メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp

授業形態
『講義』 『グループワーク』 『パソコン実習』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』

講義・演習概要
外国人留学生を対象とし、大学で学ぶために必要となるアカデミックな日本語力のうち、特に「書く力」を養う。様々なテーマについて話し合ったあと、アカデミックな文章にふさわしい文体や表現を確認し、作文課題に取り組む。

学習(到達)目標
アカデミックな文章にふさわしい文体や表現を確認し、論理的なレポートが書けるようになる。

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション	
【第2回】 アカデミック・ライティングへの準備	
【第3回】 指示表現	
【第4回】 接続表現	
【第5回】 主張の表現	
【第6回】 文末の表現	
【第7回】 視点	
【第8回】 呼応の表現	
【第9回】 引用の表現①	
【第10回】 引用の表現②	
【第11回】 図表・データの表現①	
【第12回】 図表・データの表現②	
【第13回】 レポート作成①	
【第14回】 レポート作成②	
【第15回】 試験とまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	40%	その他	10%
コメント	試験50%、レポート(課題と小テスト)40%、その他(授業参加度等)10% 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書	伊集院郁子他	タイトル	日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座
ISBN	978-4-86639-360-5	出版社	アスク出版
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
返却された小テストや課題は必ず見直し、よく復習しておいてください。また、普段から日本や世界で起こっている事柄に関心を持ち、日本語でニュースを読んだり聞いたりする習慣をつけましょう。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅲb<必修08～> 01<春> ナンバリングコード: JPAN2000
曜時1: 火2 曜時2:
担当教員名: 吉岡 美穂

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
講義、演習、ビデオ、留学生の体験などから日本と異文化について考え、学んでいく。
参加型授業なので、学生の積極的な参加が必要となる。

学習(到達)目標
日本の文化を学びながら、自文化に対する気づきを促す。自分の国では「常識」であることが、他国では「常識ではない」ことに気づくことを目的とする。日本人のコミュニケーションの特徴を学びながら、自分のコミュニケーションの仕方に気づき、異文化理解を深める能力を養う。

講義・演習計画	
【第1回】 オリエンテーション	
【第2回】 文化とは何か?	
【第3回】 文化とは何か?(2)	
【第4回】 コミュニケーションとは?	
【第5回】 コミュニケーションの特徴	
【第6回】 カルチャーショック	
【第7回】 カルチャーショックから学ぶ	
【第8回】 情報のとらえ方、伝わり方	
【第9回】 クラス発表	
【第10回】 ステレオタイプと偏見	
【第11回】 ステレオタイプと偏見(2)	
【第12回】 ビデオ鑑賞	
【第13回】 コミュニケーションと自己開示	
【第14回】 異文化適応	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	30%	その他	20%
コメント	①テスト内容は授業で学んだテーマから記述式で出題する。 ②その他20%の評価はクラスでの発表と参加貢献度。 ③5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とする。 ただし、公認欠席は除く。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
教員が毎回資料を配布する。

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
宿題、課題は決められた期日に提出すること。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語Ⅲb<必修08～> 02<春> 曜日1: 木2 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPAN2000 曜時2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態			
『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』			
講義・演習概要			
留学生在が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。			
学習(到達)目標			
【読解】論文に近い難易度を持った長い論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約できるようになる。 【聴解】長く、やや複雑な講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえるとともに重要な細部を聞き取って、ノートを取ったり要約したりできるようになる。			
講義・演習計画			
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「女性専用車両」			
【第2回】 漢字テストとディクテーション、読解①「茶の伝わり方」			
【第3回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「津軽三味線」			
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「衝動買い」			
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「そばをすする音」			
【第6回】 漢字テストとディクテーション、読解③「日本人の宗教観」			
【第7回】 漢字テストとディクテーション、聴解④「虚偽の告白」			
【第8回】 漢字テストとディクテーション、読解④「日本人の意識」			
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤「明治神宮の森」			
【第10回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「安全でおいしい水」			
【第11回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥「渋滞学」			
【第12回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「「まじめ」の意味」			
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「開発途上国支援」			
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「がん告知」			
【第15回】 試験とまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	40%
コメント	・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
毎回、配付教材あり。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)			
・読解については、予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしておくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本語IVa<必修08〜> 01<秋> 曜日: 木1 担当教員名: 村中 淑子	ナンバリングコード: JPAN2010 曜日2:
--	-----------------------------

研究室: 聖アンデレ館6階625号室	オフィスアワー: 月曜昼休み、木曜昼休み	メールアドレス: tmuranaka@andrew.ac.jp
--------------------	----------------------	---------------------------------

授業形態 『講義』『プレゼンテーション』『グループワーク』『パソコン実習』
--

講義・演習概要 外国人留学生在大学の授業におけるレポートを書くための助けとなるような作業を行う。

学習(到達)目標 (1) 新聞記事を要約し、コメントの文章が書ける。 (2) 自分の関心に基づいて論文を探し、それを要約できる。 (3) 図表データをもとに考察し、わかりやすく説明する文章が書ける。
--

講義・演習計画
【第1回】 授業の進め方の説明、3分間スピーチ。ワークシート記入。個別面接(レディネス確認)。
【第2回】 新聞記事の読み取りと要約。
【第3回】 新聞記事へのコメント作り。
【第4回】 新聞記事の読み取りと要約。
【第5回】 新聞記事へのコメント作り。
【第6回】 レポート(1) 新聞記事を用いた小レポート。
【第7回】 論文リスト作り。CiNiiを使って論文を探し、リストを作成する。
【第8回】 前回のリストの中から1本論文を選び、自分の言葉で要約する。
【第9回】 前回選んだ論文へのコメントを作成する。
【第10回】 レポート(2) これまでの作業(論文リスト作成と要約・コメント作り)をまとめてレポートの形に仕上げ、それをもとに、口頭発表する。
【第11回】 図表データに基づく結果と考察の書き方の練習1
【第12回】 図表データに基づく結果と考察の書き方の練習2
【第13回】 図表データに基づく結果と考察の書き方の練習3
【第14回】 レポート(3) 図表データに基づくレポート作成。
【第15回】 レポート返却、復習ワークシート。

成績評価の方法				
試験	レポート	90%	その他	10%
コメント	小レポート3回(それぞれ30点ずつ)と最終回の復習ワークシート(10点)を合わせて評価する。 毎回の出席(万一、遠隔授業となった場合は遠隔出席)と課題の提出が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。			

テキスト			
著書	タイトル		
ISBN	出版社		
教科書購入区分	選択なし	備考	テキストは指定せず、コピー資料を配布する。
著書	タイトル		
ISBN	出版社		
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書	タイトル		
ISBN	出版社		
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献 米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート改訂版』風間書房、石井一成『大学生のためのレポート・論文の書き方』(ナツメ社)

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間・事後学習 8 時間) 課題には個別にフィードバックするので、よく復習して、より良いレポート作成につなげる。
--

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用) 外国人留學生のみ履修可能

講義名: 日本語IVa<必修08～> 02<秋> 曜日: 月2 担当教員名: 竹山 直子	ナンバリングコード: JPN2010 曜日2:
--	----------------------------

研究室: 外国語教育センター	オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限	メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp
----------------	----------------------	--------------------------------

授業形態 『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』 『パソコン実習』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』
--

講義・演習概要 外国人留学生を対象とし、大学で学ぶために必要となるアカデミックな日本語力のうち、特に「書く力」「話す力」を養う。様々なテーマについて話し合ったあと作文課題に取り組み、書いた文章をもとに発表したりディスカッションをしたりする。最終的にレポートをまとめ、プレゼンテーションの形で発表する。

学習(到達)目標 アカデミックな文章の構成や論理の展開を意識し、引用やデータの利用などを適切に行って論理的なレポートを書き、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。
--

講義・演習計画	
【第1回】 序論・本論・結論	
【第2回】 中心文・指示文	
【第3回】 説得力のある論理展開①	
【第4回】 説得力のある論理展開②	
【第5回】 段落と文①	
【第6回】 段落と文②	
【第7回】 引用①	
【第8回】 引用②	
【第9回】 図表・データの利用①	
【第10回】 図表・データの利用②	
【第11回】 レポート作成	
【第12回】 プレゼンテーション準備	
【第13回】 発表会①	
【第14回】 発表会②	
【第15回】 試験とまとめ	

成績評価の方法		
試験 40%	レポート 30%	その他 30%
コメント	試験40%、レポート30%(課題10%・最終レポート20%)、その他30%(授業参加度等10%・最終発表20%) 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。	

テキスト			
著書	伊集院郁子他	タイトル	日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座
ISBN	978-4-86639-360-5	出版社	アスク出版
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献 二通信子他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)
--

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間) 返却された課題は必ず見直し、よく復習しておいてください。また、普段から日本や世界で起こっている事柄に関心を持ち、日本語でニュースを読んだり聞いたりして自分の意見をまとめる習慣をつけましょう。
--

その他備考(担当教員用) ・ノート/パソコンの持参を指示することがあります。

キーワード

備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語IVb<必修08～> 01<秋> ナンバリングコード: JPN2010
曜日1: 火2 曜時2:
担当教員名: 吉岡 美穂

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』

講義・演習概要
春学期に引き続き、講義、演習、ディスカッションを通して、異文化コミュニケーション能力を高めていく。
授業を通して異なる観点から物事を見る力を養う。

学習(到達)目標
日本人との接し方、関わり方を学ぶことにより、日本人との問題解決について考える。自文化と他文化に対する理解を深めながら、自分自身への気づきとなることを目的とする。

講義・演習計画	
【第1回】 オリエンテーション	
【第2回】 価値観とは？	
【第3回】 様々な価値観	
【第4回】 家族観	
【第5回】 結婚観	
【第6回】 言語コミュニケーション	
【第7回】 コミュニケーションスタイル	
【第8回】 レポート発表	
【第9回】 非言語コミュニケーションとは？	
【第10回】 非言語コミュニケーションの種類	
【第11回】 時間と空間	
【第12回】 誤解はどこから生まれるのか	
【第13回】 多文化共生に向けて	
【第14回】 レポート発表	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	30%	その他	20%
コメント	①テスト内容は授業で学んだテーマから記述式で出題する。 ②その他20%の評価はクラスでの発表と参加貢献度。 ③5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とする。 ただし、公認欠席は除く。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
教員が資料を配布する。テーマにそって参考文献を紹介する。

事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間)
宿題、レポートの提出は期日に提出すること。

その他備考(担当教員用)

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 日本語IVb<必修08〜> 02<秋> 曜日1: 木2 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: JPAN2010 曜日2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態 『その他(語学科目)』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある教員が日本語授業を担当する)』			
講義・演習概要 留学生在が大学で授業を受けるために必要な日本語力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばす練習を行う。読んだもの・聞いたものを要約する練習も行う。			
学習(到達)目標 【読解】論文や社説など難易度の高い論述文を、全体の構成を考えながら読み通し、論旨を把握するとともに重要な細部を見つけ出して要約し、それについての意見を書くことができるようになる。 【聴解】長く複雑な講義を、視覚資料を見ながら聞き、論旨や概要をとらえたとともに重要な細部を聞き取ってノートを取ったり要約したりし、さらにそれについての意見を書くことができるようになる。			
講義・演習計画			
【第1回】 オリエンテーション、聴解①「量」			
【第2回】 漢字テストとディクテーション、読解①「脳の休息」			
【第3回】 漢字テストとディクテーション、聴解②「バイオイレ」			
【第4回】 漢字テストとディクテーション、読解②「男女平等」			
【第5回】 漢字テストとディクテーション、聴解③「茶の湯」			
【第6回】 漢字テストとディクテーション、読解③「出る杭は打たれる」			
【第7回】 漢字テストとディクテーション、聴解④「遺伝子」			
【第8回】 漢字テストとディクテーション、読解④「遺伝子」			
【第9回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑤「不確実性の回避」			
【第10回】 漢字テストとディクテーション、読解⑤「地球温暖化」			
【第11回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑥ 講義を聞く			
【第12回】 漢字テストとディクテーション、読解⑥「人口問題」			
【第13回】 漢字テストとディクテーション、聴解⑦「防災教育」			
【第14回】 漢字テストとディクテーション、読解⑦「環境問題」			
【第15回】 試験とまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	40%
コメント	その他 20% ・レポートに含まれる項目: 提出物(課題)10%、漢字クイズとディクテーション10%、読解問題予習と聴解問題20% ・その他に含まれる項目: 授業態度・参加度 日本語力を上げるためには、日ごろの努力の積み重ねが大変重要です。そのため、試験だけでなく、宿題や毎回の読解および聴解問題の出来具合、授業態度を重視します。 毎回出席(遠隔授業となった場合はZoom出席もしくはM-Portによる課題提出)が原則です。 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献 毎回、配付教材あり。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 8 時間 ・事後学習 8 時間) ・読解については、予習(問題に解答する)をして、指定の日時までにM-Portに提出すること。 ・毎回、漢字テストのための準備をしておくこと。 ・課された課題を指定の日時までにM-Portに必ず提出すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本事情A[外国人留学生用] <春> 曜日1: 火1 担当教員名: 竹山 直子		ナンバリングコード: CULT1000 曜日2:	
研究室: 外国語教育センター		オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限	
メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp			
授業形態 『講義』 『アクティブラーニング』 『プレゼンテーション』 『グループワーク』			
講義・演習概要 外国人留学生を対象に、現代日本社会のさまざまな領域についての理解を深めるための授業です。日本の生活、社会、文化などさまざまなテーマについて基礎的な知識を身につけたうえで、グループや個人で調べたことを発表したりディスカッションを行ったりします。また、毎回担当を決めて、興味を持ったニュースについて簡単な発表をしてもらいます。			
学習(到達)目標 日本社会について基礎的な知識を身につけ、調べたことを発表し合ったりディスカッションをしたりする中で理解を深めます。同時に、それぞれのテーマに関連する語彙を増やし日本語能力を向上させることも目指します。授業は基本的にすべて日本語で行うので、日本語レベルが中級以上の学生を対象とします。			
講義・演習計画			
【第1回】 オリエンテーションと自己紹介			
【第2回】 ニュースの発表について			
【第3回】 地理・風土①			
【第4回】 地理・風土②			
【第5回】 地理・風土③			
【第6回】 衣食住①			
【第7回】 衣食住②			
【第8回】 衣食住③			
【第9回】 ポップカルチャー①			
【第10回】 ポップカルチャー②			
【第11回】 ポップカルチャー③			
【第12回】 プレゼンテーション①			
【第13回】 プレゼンテーション②			
【第14回】 期末試験①			
【第15回】 期末試験②およびまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	30%
コメント	期末試験(筆記、面談)40%、レポート(小テスト、発表、課題等)30%、最終発表20%、授業参加度10%		
テキスト			
著書	佐々木瑞枝	タイトル	クローズアップ日本事情15－日本語で学ぶ社会と文化
ISBN	9784789016537	出版社	The Japan Times
教科書購入区分	大学オンライン販売	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献 授業の内容に関連する資料を適宜授業内で配布します。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)			
<ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書を読んだり語彙を確認したりして、授業に積極的に参加できるように準備してください。グループで話し合いをしたり、テーマに沿って簡単な発表をってもらう機会が多くあります。 学期中に一人一回、興味を持ったニュースについて簡単な発表をします。普段から問題意識を持って日本のニュースに触れるようにしましょう。 テーマごとに、授業で学習した内容や語彙について、小テストを行います。 			
その他備考(担当教員用)			
<ul style="list-style-type: none"> 留学生のみを対象とします。授業はすべて日本語で行うので中級以上の日本語能力が必要です。グループ活動を頻繁に行いますので、必ず日本語で話し合いに参加してください。 簡単な調べ物をする機会が多いので、スマートフォンやタブレット等、インターネットに接続できるデバイスを持参してください。 			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧: 日本事情)02～14生読替☆外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 日本事情B[外国人留学生用] <秋> 曜日: 火1 担当教員名: 竹山 直子		ナンバリングコード: CULT1010 曜日2:	
研究室: 外国語教育センター		オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限	
メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp			
授業形態 『講義』『アクティブラーニング』『プレゼンテーション』『グループワーク』			
講義・演習概要 外国人留学生を対象に、現代日本社会のさまざまな領域について理解を深めるための授業です。日本の生活、教育などさまざまなテーマについて、新聞記事や漫画など各種の素材をもとにディスカッションを行ったり、グループや個人で調べたことを発表したりします。また、毎回担当を決めて、興味を持ったニュースについて簡単な発表をしてもらいます。			
学習(到達)目標 メディアを通して日本社会について学び、ディスカッションをしたり調べたことを発表し合ったりする中で理解を深め、自分の意見をまとめることを目指します。同時に、それぞれのテーマに関連する語彙を増やし日本語能力を向上させることも目指します。授業は基本的にすべて日本語で行うので、日本語レベルが中級以上の学生を対象とします。			
講義・演習計画			
【第1回】オリエンテーションと自己紹介			
【第2回】ニュースの発表について			
【第3回】年中行事①			
【第4回】年中行事②			
【第5回】年中行事③			
【第6回】教育①			
【第7回】教育②			
【第8回】教育③			
【第9回】ジェンダー①			
【第10回】ジェンダー②			
【第11回】ジェンダー③			
【第12回】プレゼンテーション①			
【第13回】プレゼンテーション②			
【第14回】期末試験①			
【第15回】期末試験②およびまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	30%
コメント	期末試験(筆記、面談)40%、レポート(小テスト、発表、課題等)30%、最終発表(プレゼンテーション)20%、授業参加度10%		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献 佐々木瑞枝「クローズアップ日本事情15ー日本語で学ぶ社会と文化」(The Japan Times)ISBN9784789016537 その他、授業の内容に関連する資料を適宜授業内で配布します。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間) ・事前に教科書を読んだり語彙を確認したりして、授業に積極的に参加できるように準備してください。グループで話し合いをしたり、テーマに沿って簡単な発表をってもらう機会が多くあります。 ・学期中に一人一回、興味を持ったニュースについて簡単な発表をします。普段から問題意識を持って日本のニュースに触れるようにしましょう。 ・テーマごとに、授業で学習した内容や語彙について、小テストを行います。			
その他備考(担当教員用) ・留学生のみを対象とします。授業はすべて日本語で行うので中級以上の日本語能力が必要です。グループ活動を頻繁に行いますので、必ず日本語で話し合いに参加してください。 ・簡単な調べ物をする機会が多いので、スマートフォンやタブレット等、インターネットに接続できるデバイスを持参してください。			
キーワード			
備考(管理者用) (旧: 日本事情)02~14生読替☆外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 国際交流特別講義-Advanced Japanese 01<春> 曜日1: 月4 担当教員名: 岡田 裕子		ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態			
『講義』『プレゼンテーション』『グループワーク』			
講義・演習概要			
日本のさまざまな社会問題や行動様式に関して、アカデミックな内容の文章を読んだりデータを読み解いた上で、それをもとにディスカッションを行ったり、内容や意見をまとめたりする。また、各自またはグループで文献調査やアンケート調査を行った上で、分析・考察したものを発表したり文章にまとめたりする。 ※履修者は、日本語能力試験(JLPT)N1合格程度の日本語力があることが望ましい。			
学習(到達)目標			
日本のさまざまな社会問題について分析や考察を行う。またその作業を通して、日本語の総合的な運用力を高める。			
講義・演習計画			
【第1回】 ガイダンス、自己紹介、日本語力チェック			
【第2回】 日本の食文化と食生活			
【第3回】 生活習慣と宗教			
【第4回】 家族			
【第5回】 労働			
【第6回】 ジェンダー(企業)			
【第7回】 ジェンダー(家庭)			
【第8回】 環境(リサイクル)			
【第9回】 環境(原発)			
【第10回】 日本の歴史とサムライ			
【第11回】 若者の価値観			
【第12回】 言葉の変化			
【第13回】 期末発表1			
【第14回】 期末発表2			
【第15回】 レポート作成			
成績評価の方法			
試験		レポート	20%
コメント	評価の内訳 期末課題: 40% (発表20%、レポート20%) 平常課題: 60% (毎回の授業の中で取り上げたトピックについて、その授業の最後に要約したり意見をまとめたりする) ※授業には必ず毎回出席してください。5回以上の欠席、あるいは期末課題の未達成は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とします。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)			
事前の予習が必要な場合は前週に授業内で指示しますので、必ず授業に出席してください。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 国際交流特別講義-Advanced Japanese 02<秋> 曜日1: 月4 担当教員名: 岡田 裕子		ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態			
『講義』『プレゼンテーション』『グループワーク』			
講義・演習概要			
日本のさまざまな社会問題や行動様式に関して、アカデミックな内容の文章を読んだりデータを読み解いた上で、それをもとにディスカッションを行ったり、内容や意見をまとめたりする。また、各自またはグループで文献調査やアンケート調査を行った上で、分析・考察したものを発表したり文章にまとめたりする。 ※履修者は、日本語能力試験(JLPT)N1合格程度の日本語力があることが望ましい。			
学習(到達)目標			
日本のさまざまな社会問題について分析や考察を行う。またその作業を通して、日本語の総合的な運用力を高める。			
講義・演習計画			
【第1回】 ガイダンス、自己紹介、日本語力チェック			
【第2回】 日本の食文化と食生活			
【第3回】 生活習慣と宗教			
【第4回】 家族			
【第5回】 労働			
【第6回】 ジェンダー(企業)			
【第7回】 ジェンダー(家庭)			
【第8回】 環境(リサイクル)			
【第9回】 環境(原発)			
【第10回】 日本の歴史とサムライ			
【第11回】 若者の価値観			
【第12回】 言葉の変化			
【第13回】 期末発表1			
【第14回】 期末発表2			
【第15回】 レポート作成			
成績評価の方法			
試験		レポート	20%
コメント	評価の内訳 期末課題: 40% (発表20%、レポート20%) 平常課題: 60% (毎回の授業の中で取り上げたトピックについて、その授業の最後に要約したり意見をまとめたりする) ※授業には必ず毎回出席してください。5回以上の欠席、あるいは期末課題の未達成は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とします。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)			
事前の予習が必要な場合は前週に授業内で指示しますので、必ず授業に出席してください。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 国際交流特別講義-日本事情(応用/ビジネス日本語) 01<春> 曜日: 金2 担当教員名: 宮本 敬太		ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	メールアドレス:
授業形態 『アクティブラーニング』 『グループワーク』			
講義・演習概要 本講義では、『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習—職場のダイバーシティで学び合う【教材編2】』をテキストとして、ケース学習を行う。具体的には以下のようなことを実施する。 ・テキストに登場する様々なビジネスケースの分析 ・他の履修者とのディスカッション ・履修者自身の経験(日本での生活やアルバイトの経験)に基づいたケースの共有 ・履修者自身の経験(日本での生活やアルバイトの経験)に基づいたケースの分析			
学習(到達)目標 ビジネスコミュニケーションスキルの向上はもちろんとして、日本語の読解、会話など総合的なスキルの向上を目指す。			
講義・演習計画			
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方・評価の仕方の説明等) 履修者自己紹介			
【第2回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習01			
【第3回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習02			
【第4回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習03			
【第5回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習04			
【第6回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習05			
【第7回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習06			
【第8回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習07			
【第9回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習08			
【第10回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習09			
【第11回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習10			
【第12回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習11			
【第13回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習12			
【第14回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習13			
【第15回】 期末試験			
成績評価の方法			
試験	50%	レポート	その他 50%
コメント	5回以上の欠席は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。その他の評価の方法については第1回目、第2回目の講義で説明します。		
テキスト			
著書	近藤彩・金孝卿・池田玲子	タイトル	ビジネスコミュニケーションのためのケース学習：職場のダイバーシティで学び合う【教材編2】
ISBN	978-4-86676-018-6	出版社	ココ出版
教科書購入区分	学生独自購入	備考	必ず【教材編2】を買うこと。
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間） 各講義の間に課題を指定する。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード ビジネスコミュニケーション, ケース学習			
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 国際交流特別講義-日本事情(応用/ビジネス日本語) 02<秋> 曜日: 金2 担当教員名: 宮本 敬太		ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:	
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後	
メールアドレス:			
授業形態 『アクティブラーニング』 『グループワーク』			
講義・演習概要 本講義では、『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習—職場のダイバーシティで学び合う【教材編2】』をテキストとして、ケース学習を行う。具体的には以下のようなことを実施する。 ・テキストに登場する様々なビジネスケースの分析 ・他の履修者とのディスカッション ・履修者自身の経験(日本での生活やアルバイトの経験)に基づいたケースの共有 ・履修者自身の経験(日本での生活やアルバイトの経験)に基づいたケースの分析			
学習(到達)目標 ビジネスコミュニケーションスキルの向上はもちろんとして、日本語の読解、会話など総合的なスキルの向上を目指す。			
講義・演習計画			
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方・評価の仕方の説明等) 履修者自己紹介			
【第2回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習1			
【第3回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習2			
【第4回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習3			
【第5回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習4			
【第6回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習5			
【第7回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習6			
【第8回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習7			
【第9回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習8			
【第10回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習9			
【第11回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習10			
【第12回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習11			
【第13回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習12			
【第14回】 ビジネスコミュニケーションのためのケース学習13			
【第15回】 期末試験			
成績評価の方法			
試験	50%	レポート	その他 50%
コメント	5回以上の欠席は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。その他の評価の方法については第1回目、第2回目の講義で説明します。		
テキスト			
著書	近藤彩・金孝卿・池田玲子	タイトル	ビジネスコミュニケーションのためのケース学習：職場のダイバーシティで学び合う【教材編2】
ISBN	978-4-86676-018-6	出版社	ココ出版
教科書購入区分	学生独自購入	備考	必ず【教材編2】を買うこと
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間） 各講義の間に課題を指定する。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード ビジネスコミュニケーション, ケース学習			
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能			

講義名：国際交流特別講義-日本事情(基礎) 01<春> 曜日1：金4 担当教員名：島 千尋		ナンバリングコード：INTR1000 曜日2：			
研究室：兼任講師控室		オフィスアワー：授業前後			
メールアドレス：					
授業形態					
『講義』 『アクティブラーニング』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が、留学生にとって日本や日本語を学ぶ上で必要になる基礎的な事項について教授する。)]』					
講義・演習概要					
この授業は、「日本」や「日本語」についての基礎的なことを学びます。日本で生活し、日本の大学で勉強し、将来日本に関係する仕事をする上で、基本的な日本の地理や歴史、伝統文化についての知識が必要です。また、日常でよく使う言葉や表現、その書き方(漢字・カタカナ)も知っておいた方がいいです。この授業で、こうしたことについて一緒に学んでいきましょう。日本の伝統行事の体験もします。 1. 日本の地理、歴史、伝統文化についての基礎的な事項について知る 2. 日常でよく使う日本語の様々な言葉や表現、書き方を学ぶ 3. 日本の伝統行事を体験する					
学習(到達)目標					
1. 日本の地理、歴史、伝統文化についての基礎的な知識を身につける 2. 日常でよく使う日本語の様々な言葉や表現、書き方を学んで使えるようになる					
講義・演習計画					
【第1回】 ①オリエンテーション ②日常でよく使う表現1 ～朝起きてから登校まで～					
【第2回】 日本の地理(各地の名前や特徴)1 ～東日本～					
【第3回】 日本の地理(各地の名前や特徴)2 ～西日本～					
【第4回】 ①日本人の名前 ②世界の地名や人名の日本語での書き方					
【第5回】 日常でよく使う表現2 ～体や病気～					
【第6回】 日本の伝統行事体験 ～短歌～					
【第7回】 ①日常でよく使う表現3 ～身につけるものや身につける動作～ ②色の名前					
【第8回】 日本の年中行事1 ～春から夏まで～					
【第9回】 日本の伝統行事体験 ～七夕～					
【第10回】 日本の年中行事2 ～秋から冬まで～					
【第11回】 日常でよく使う表現4 ～いろいろな体の動き～					
【第12回】 日本の歴史1 ～古代から中世まで～					
【第13回】 日本の歴史2 ～近世から現代まで～					
【第14回】 日常でよく使う表現5 ～数え方や割合～					
【第15回】 試験とまとめ					
成績評価の方法					
試験	40%	レポート	20%	その他	40%
コメント	・「レポート」は毎回の小テストです(授業の初めにいつも小テストをします) ・「その他」は授業態度と参加度です。 ・毎回出席(遠隔授業となった場合はzoom出席もしくはM-portによる課題提出)が原則です。5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
事前および事後学習の指示(事前学習 30 時間・事後学習 30 時間) 毎回、授業の最初に小テストをしますので、テストの勉強をしてきてください。					
その他備考(担当教員用)					
キーワード 日本の地理、日本の歴史、日本の伝統文化、日本語の日常表現					
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能					

講義名：国際交流特別講義-日本事情(基礎) 02<秋> 曜日1: 金4 担当教員名: 島 千尋		ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:			
研究室: 兼任講師控室		オフィスアワー: 授業前後			
メールアドレス:					
授業形態					
『講義』 『アクティブラーニング』 『実務経験のある教員による授業①(日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が、留学生にとって日本や日本語を学ぶ上で必要になる基礎的な事項について教授する。』					
講義・演習概要					
この授業は、「日本」や「日本語」についての基礎的なことを学びます。日本で生活し、日本の大学で勉強し、将来日本に関係する仕事をする上で、基本的な日本の地理や歴史、伝統文化についての知識が必要です。また、日常でよく使う言葉や表現、その書き方(漢字・カタカナ)も知っておいた方がいいです。この授業で、こうしたことについて一緒に学んでいきましょう。日本の伝統行事の体験もします。 1. 日本の地理、歴史、伝統文化についての基礎的な事項について知る 2. 日常でよく使う日本語の様々な言葉や表現、書き方を学ぶ 3. 日本の伝統行事を体験する					
学習(到達)目標					
1. 日本の地理、歴史、伝統文化についての基礎的な知識を身につける 2. 日常でよく使う日本語の様々な言葉や表現、書き方を学んで使えるようになる					
講義・演習計画					
【第1回】 ①オリエンテーション ②日常でよく使う表現1 ～朝起きてから登校まで～					
【第2回】 日本の地理(各地の名前や特徴)1 ～東日本～					
【第3回】 日本の地理(各地の名前や特徴)2 ～西日本～					
【第4回】 ①日本人の名前 ②世界の地名や人名の日本語での書き方					
【第5回】 日常でよく使う表現2 ～体や病気～					
【第6回】 日本の伝統行事体験 ～短歌～					
【第7回】 ①日常でよく使う表現3 ～身につけるものや身につける動作～ ②色の名前					
【第8回】 日本の年中行事1 ～春から夏まで～					
【第9回】 日本の年中行事2 ～秋から冬まで～					
【第10回】 日本の伝統行事体験 ～年賀状～					
【第11回】 日常でよく使う表現4 ～いろいろな体の動き～					
【第12回】 日本の歴史1 ～古代から中世まで～					
【第13回】 日本の歴史2 ～近世から現代まで～					
【第14回】 日常でよく使う表現5 ～数え方や割合～					
【第15回】 試験とまとめ					
成績評価の方法					
試験	40%	レポート	20%	その他	40%
コメント	・「レポート」は毎回の小テストです(授業の初めにいつも小テストをします) ・「その他」は授業態度と参加度です。 ・毎回出席(遠隔授業となった場合はzoom出席もしくはM-portによる課題提出)が原則です。5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
事前および事後学習の指示(事前学習 30 時間・事後学習 30 時間) 毎回、授業の最初に小テストをしますので、テストの勉強をしてきてください。					
その他備考(担当教員用)					
キーワード 日本の地理、日本の歴史、日本の伝統文化、日本語の日常表現					
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能					

講義名：国際交流特別講義-N1対策(文法) 01<春> ナンバリングコード：INTR1000
曜時1：水2 曜時2：
担当教員名：三木 由里子

研究室：兼任講師控室 オフィスアワー：授業前後 メールアドレス：

授業形態
『講義』

講義・演習概要
日本語能力試験(JLPT)N1レベルの文法の使い方を学び、使う練習をする。

学習(到達)目標
日本語能力試験(JLPT)N1レベルの文法の使い方を身につけ、日常生活で運用できるようにする。

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方、日本語能力試験の問題形式などの紹介、例題など)	
【第2回】 第1章	
【第3回】 第2章	
【第4回】 第3章(1)	
【第5回】 第3章(2)	
【第6回】 第4章	
【第7回】 第5章(1)	
【第8回】 第5章(2)	
【第9回】 第5章(3)・第6章	
【第10回】 第7章(1)	
【第11回】 第7章(2)・模擬試験	
【第12回】 第8章(1)	
【第13回】 第8章(2)・第9章	
【第14回】 第10章	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	0%	その他	50%
コメント	・評価の内訳 試験：学期末試験 その他：平常点(提出物、小テスト、授業参加、授業への取り組み) ・授業に毎回出席すること。5回以上欠席した場合は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	ABK(公益財団法人 アジア学生文化協会)	タイトル	TRY! 日本語能力試験 文法から伸ばす日本語 N1【改訂版/英語版】
ISBN	9784872179040	出版社	アスク
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
『改訂版 どんなくときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子、宮本淳、和栗雅子 アルク

事前および事後学習の指示(事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)
予習を前提として授業を進める。また、前回の学習範囲について毎回小テストを行う。

その他備考(担当教員用)
この授業を履修する学生は日本語能力試験N2レベルの日本語力を持つことが望ましい。

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名：国際交流特別講義-N1対策(文法) 02<秋> ナンバリングコード：INTR1000
曜時1：水2 曜時2：
担当教員名：三木 由里子

研究室：兼任講師控室 オフィスアワー：授業前後 メールアドレス：

授業形態
『講義』

講義・演習概要
日本語能力試験(JLPT)N1レベルの文法の使い方を学び、使う練習をする。

学習(到達)目標
日本語能力試験(JLPT)N1レベルの文法の使い方を身につけ、日常生活で運用できるようにする。

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方、日本語能力試験の問題形式などの紹介、例題など)	
【第2回】 第1章	
【第3回】 第2章	
【第4回】 第3章(1)	
【第5回】 第3章(2)	
【第6回】 第4章	
【第7回】 第5章(1)	
【第8回】 第5章(2)	
【第9回】 第5章(3)・第6章	
【第10回】 第7章(1)	
【第11回】 第7章(2)・模擬試験	
【第12回】 第8章(1)	
【第13回】 第8章(2)・第9章	
【第14回】 第10章	
【第15回】 試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	0%	その他	50%
コメント	・評価の内訳 試験：学期末試験 その他：平常点(提出物、小テスト、授業参加、授業への取り組み) ・授業に毎回出席すること。5回以上欠席した場合は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とする。				

テキスト			
著書	ABK(公益財団法人 アジア学生文化協会)	タイトル	TRY! 日本語能力試験 文法から伸ばす日本語 N1【改訂版/英語版】
ISBN	9784872179040	出版社	アスク
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子、宮本淳、和栗雅子 アルク

事前および事後学習の指示(事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)
予習を前提として授業を進める。また、前回の学習範囲について毎回小テストを行う。

その他備考(担当教員用)
この授業を履修する学生は日本語能力試験N2レベルの日本語力を持つことが望ましい。

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名：国際交流特別講義-N1対策(聴解・読解) 01<春> ナンバリングコード：INTR1000
曜日：月3 曜時2:
担当教員名：岡田 裕子

研究室：兼任講師控室 オフィスアワー：授業前後 メールアドレス：

授業形態
『その他(語学の試験対策科目)』

講義・演習概要
日本語能力試験(JLPT)のN1対策授業。聴解・読解の分野について、N1レベルの内容を学び、問題演習を行う。

学習(到達)目標
JLPTの試験形式に慣れ、N1合格レベルに必要な読解力、聴解力を身につける。

講義・演習計画	
【第1回】 ガイダンス、自己紹介、現在の日本語力チェック	
【第2回】 聴解、読解(対比・言い換え)	
【第3回】 聴解、読解(比喩・疑問提示文)	
【第4回】 聴解、読解(指示語・主語や目的語を読み取る)	
【第5回】 聴解、読解(下線部を意味を読み取る)	
【第6回】 聴解、読解(理由や例を読み取る)	
【第7回】 聴解、読解(全体の流れをつかむ1)	
【第8回】 聴解、読解(全体の流れをつかむ2)	
【第9回】 聴解、読解(広告やお知らせから情報を探し出す)	
【第10回】 聴解、読解(説明書きや表から情報を探し出す)	
【第11回】 聴解、読解(模試形式の総まとめ練習)	
【第12回】 聴解、読解(内容理解1)	
【第13回】 聴解、読解(内容理解2)	
【第14回】 聴解、読解(内容理解3)	
【第15回】 期末試験およびまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	0%	その他	50%
コメント	評価の内訳 期末試験：50% (授業で扱った出題形式で、読解および聴解の問題を出題する) 小テスト：40% (毎回小テストを実施し、授業で扱った表現などが身についたかどうかを測る) 授業内課題または宿題：10% (読解内容を理解したか確認のため、要約したり意見をまとめたりすることがある) ※授業には必ず毎回出席してください。授業で扱ったことについて翌週に小テストを行います。遅刻欠席の場合は受けられません。 ※5回以上の欠席、あるいは課題の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とします。				

テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
授業の中で指示する。

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)
課題などに備えて授業に臨むよう、授業内で方法等を指示する。

その他備考(担当教員用)

キーワード
JLPT、N1、読解

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名：国際交流特別講義-N1対策(聴解・読解) 02<秋> 曜日：月3 担当教員名：岡田 裕子		ナンバリングコード：INTR1000 曜日2：	
研究室：兼任講師控室	オフィスアワー：授業前後	メールアドレス：	
授業形態 『その他(語学の試験対策科目)』			
講義・演習概要 日本語能力試験(JLPT)のN1対策授業。聴解・読解の分野について、N1レベルの内容を学び、問題演習を行う。			
学習(到達)目標 N1の試験形式に慣れ、N1合格レベルに必要な読解力、聴解力を身につける。			
講義・演習計画			
【第1回】 ガイダンス、自己紹介、現在の日本語力チェック			
【第2回】 聴解、読解(対比・言い換え)			
【第3回】 聴解、読解(比喩・疑問提示文)			
【第4回】 聴解、読解(指示語・主語や目的語を読み取る)			
【第5回】 聴解、読解(下線部を意味を読み取る)			
【第6回】 聴解、読解(理由や例を読み取る)			
【第7回】 聴解、読解(全体の流れをつかむ1)			
【第8回】 聴解、読解(全体の流れをつかむ2)			
【第9回】 聴解、読解(広告やお知らせから情報を探し出す)			
【第10回】 聴解、読解(説明書きや表から情報を探し出す)			
【第11回】 聴解、読解(模試形式の総まとめ練習)			
【第12回】 聴解、読解(内容理解1)			
【第13回】 聴解、読解(内容理解2)			
【第14回】 聴解、読解(内容理解3)			
【第15回】 期末試験およびまとめ			
成績評価の方法			
試験	50%	レポート	0%
コメント	評価の内訳 期末試験：50% (授業で扱った出題形式で、読解および聴解の問題を出題する) 小テスト：40% (毎回小テストを実施し、授業で扱った表現などが身についたかどうかを測る) 授業内課題または宿題：10% (読解内容を理解したか確認のため、要約したり意見をまとめたりすることがある) ※授業には必ず毎回出席してください。授業で扱ったことについて翌週に小テストを行います。遅刻欠席の場合は受けられません。 ※5回以上の欠席、あるいは課題の未提出は、授業の理解度や成果が確認できないため、評価の対象外とします。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	プリント配布	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献 授業内で指示する。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間) 課題などに備えて授業に臨むよう、授業内で方法等を指示する。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード JLPT、N1、読解			
備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能			

講義名: 国際交流特別講義-N2対策(文法) 01<春> 曜日: 月4 担当教員名: 竹山 直子	ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:
--	-----------------------------

研究室: 外国語教育センター	オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限	メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp
----------------	----------------------	--------------------------------

授業形態 『講義』

講義・演習概要 日常生活の様々な場面を題材にした文章や会話文を通して、日本語能力試験(JLPT)N2(中上級)レベルの文法を学ぶ。
--

学習(到達)目標 日本語能力試験N2合格レベルの文法知識を身につけること。
--

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方の説明・日本語能力試験と問題形式の紹介等)	
【第2回】 第1課	
【第3回】 第2課	
【第4回】 第3課	
【第5回】 第4課	
【第6回】 第5課	
【第7回】 第6課	
【第8回】 第7課	
【第9回】 第9課	
【第10回】 第10課	
【第11回】 第11課	
【第12回】 第12課 模擬試験	
【第13回】 第13課	
【第14回】 第14課	
【第15回】 期末試験とまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート		その他	50%
コメント	期末試験50%、小テスト40%、授業参加等10% 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書	ABK(公益財団法人 アジア学生文化協会)	タイトル	[音声DL版]TRY!日本語能力試験N2 改訂版
ISBN	978-4866396927	出版社	アスク出版
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献 『全科目攻略! JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2』(ジャパントイムズ 978-4789017824)

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間) 予習を前提として授業を進めます。また毎回、前回の学習範囲について小テストを行います。

その他備考(担当教員用) ・履修開始時にJLPTN3合格レベルの日本語力を持つことが望ましい。 ・教科書は英語版のほかに、中国語版、ベトナム語版、またそれぞれCD付きのものや電子版もあります。各自の希望に合わせて購入してください。音声と語彙リストはアスク出版のホームページからダウンロードできます。

キーワード

備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能

講義名: 国際交流特別講義-N2対策(文法) 02<秋> 曜日1: 月4 担当教員名: 竹山 直子	ナンバリングコード: INTR1000 曜日2:
---	-----------------------------

研究室: 外国語教育センター	オフィスアワー: 火曜日3限、金曜日3限	メールアドレス: takeyama@andrew.ac.jp
----------------	----------------------	--------------------------------

授業形態 『講義』

講義・演習概要 日常生活の様々な場面を題材にした文章や会話文を通して、日本語能力試験(JLPT)N2(中上級)レベルの文法を学ぶ。
--

学習(到達)目標 日本語能力試験N2合格レベルの文法知識を身につけること。
--

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方の説明・日本語能力試験と問題形式の紹介等)	
【第2回】 第1課	
【第3回】 第2課	
【第4回】 第3課	
【第5回】 第4課	
【第6回】 第5課	
【第7回】 第6課	
【第8回】 第7課 模擬試験	
【第9回】 第9課	
【第10回】 第10課	
【第11回】 第11課	
【第12回】	第12課
【第13回】 第13課	
【第14回】 第14課	
【第15回】 期末試験とまとめ	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート		その他	50%
コメント	期末試験50%、小テスト40%、授業参加等10% 5回以上の欠席(あるいは課題の未提出)は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。				

テキスト			
著書	ABK(公益財団法人 アジア学生文化協会)	タイトル	[音声DL版]TRY!日本語能力試験N2 改訂版
ISBN	978-4866396927	出版社	アスク出版
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献
『全科目攻略! JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N2』(ジャパントイムズ 978-4789017824)

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)
予習を前提として授業を進めます。また毎回、前回の学習範囲について小テストを行います。

その他備考(担当教員用)
・履修開始時にJLPTN3合格レベルの日本語力を持つことが望ましい。 ・教科書は英語版のほかに、中国語版、ベトナム語版、またそれぞれCD付きのものや電子版もあります。各自の希望に合わせて購入してください。音声と語彙リストはアスク出版のホームページからダウンロードできます。

キーワード

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名: 国際交流特別講義-N2対策(聴解・読解) 01<春> ナンバリングコード: INTR1000
曜日1: 金3 曜日2:
担当教員名: 宮本 敬太

研究室: 兼任講師控室 オフィスアワー: 授業前後 メールアドレス:

授業形態
『講義』 『アクティブラーニング』 『グループワーク』

講義・演習概要
日常生活の様々な場면을題材にした文章や会話文を通して、日本語能力試験(JLPT)N2(中上級)レベルの聴解・読解に関するスキルについて学ぶ。

学習(到達)目標
日本語能力試験N2合格レベルの聴解・読解についての基本的な知識を身につけ、授業内の演習を繰り返すことで聴解・読解のスキルの向上を目指す。

講義・演習計画	
【第1回】 イントロダクション(授業の進め方・JLPTと問題形式の紹介等) 自己紹介 読解演習の体験:第01課 語のまとまりをとらえましょう ※初回の授業ではハンドアウトを用意しますので、教科書がなくても問題ありません。	
【第2回】 聴解:聴解演習1 読解:第02課 「する/される」の関係をつかみましょう	
【第3回】 聴解:聴解演習2 読解:第03課 文の構造をとらえましょう	
【第4回】 聴解:聴解演習3 読解:第4課 前件と後件の関係をつかみましょう	
【第5回】 聴解:聴解演習4 読解:第05課 「これ」「それ」が差すものを考えましょう	
【第6回】 聴解:聴解演習5 読解:第06課 省略されているものが何か考えましょう	
【第7回】 聴解:聴解演習6 読解:第07課 関連のある言葉を探しましょう	
【第8回】 聴解:聴解演習7 読解:第08課 文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう	
【第9回】 聴解:聴解演習8 読解:第09課 筆者の立場を見分けましょう	
【第10回】 聴解:聴解演習9 読解:第10課 大切なことを伝えるサインをつかみましょう	
【第11回】 模擬試験	
【第12回】 聴解:聴解演習10 読解:第11課 目印を使って内容を整理しましょう	
【第13回】 聴解:聴解演習11 読解:第12課 内容を素早く理解しましょう 第13課 文章の話題を見抜きましょう	
【第14回】 聴解:聴解演習12 読解:第14課 ストーリーを上手に読みましょう 第15課 読み間違いを見つけましょう	
【第15回】 期末試験	

成績評価の方法					
試験	50%	レポート	0%	その他	50%
コメント	5回以上の欠席は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。 その他の評価の方法については第1回目、第2回目の講義で説明します。				

テキスト			
著書	石黒圭(編著)	タイトル	留学生のための 読解トレーニング ～読む力がアップする15のポイント～
ISBN	978-4-89358-780-0	出版社	凡人社
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)
各講義の間に課題を指定する。

その他備考(担当教員用)

キーワード
聴解、読解、ストラテジー、JLPT、日本語能力試験

備考(管理者用)
外国人留学生のみ履修可能

講義名：国際交流特別講義-N2対策(聴解・読解) 02<秋> 曜日：金3 担当教員名：宮本 敬太	ナンバリングコード：INTR1000 曜日2:
--	----------------------------

研究室：兼任講師控室	オフィスアワー：授業前後	メールアドレス:
------------	--------------	----------

授業形態 『講義』『アクティブラーニング』『グループワーク』

講義・演習概要 日常生活の様々な場면을題材にした文章や会話文を通して、日本語能力試験(JLPT)N2(中上級)レベルの聴解・読解に関するスキルについて学ぶ。

学習(到達)目標 日本語能力試験N2合格レベルの聴解・読解についての基本的な知識を身につけ、授業内の演習を繰り返すことで聴解・読解のスキルの向上を目指す。
--

講義・演習計画
【第1回】イントロダクション(授業の進め方・JLPTと問題形式の紹介等) 自己紹介 読解演習の体験：第01課 語のまとまりをとらえましょう ※初回の授業ではハンドアウトを用意しますので、教科書がなくても問題ありません。
【第2回】聴解：聴解演習1 読解：第02課 「する／される」の関係をつかみましょう
【第3回】聴解：聴解演習2 読解：第03課 文の構造をとらえましょう
【第4回】聴解：聴解演習3 読解：第4課 前件と後件の関係をつかみましょう
【第5回】聴解：聴解演習4 読解：第05課 「これ」「それ」が差すものを考えましょう
【第6回】聴解：聴解演習5 読解：第06課 省略されているものが何か考えましょう
【第7回】聴解：聴解演習6 読解：第07課 関連のある言葉を探しましょう
【第8回】聴解：聴解演習7 読解：第08課 文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう
【第9回】聴解：聴解演習8 読解：第09課 筆者の立場を見分けましょう
【第10回】聴解：聴解演習9 読解：第10課 大切なことを伝えるサインをつかみましょう
【第11回】模擬試験
【第12回】聴解：聴解演習10 読解：第11課 目印を使って内容を整理しましょう
【第13回】聴解：聴解演習11 読解：第12課 内容を素早く理解しましょう 第13課 文章の話題を見抜きましょう
【第14回】聴解：聴解演習12 読解：第14課 ストーリーを上手に読みましょう 第15課 読み間違いを見つけましょう
【第15回】期末試験

成績評価の方法			
試験 50%	レポート	その他	50%
コメント	5回以上の欠席は、授業内における理解度と成果の確認ができないため、評価の対象外とします。ただし、公認欠席は除きます。その他の評価の方法については第1回目、第2回目の講義で説明します。		

テキスト			
著書	石黒圭(編著)	タイトル	留学生のための 読解トレーニング ～読む力がアップする15のポイント～
ISBN	978-4-89358-780-0	出版社	凡人社
教科書購入区分	学生独自購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	

参考文献

事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間) 各講義の間に課題を指定する。

その他備考(担当教員用)

キーワード 聴解、読解、ストラテジー、JLPT、日本語能力試験

備考(管理者用) 外国人留学生のみ履修可能
